

全肢連情報

ZENSHIREN BULLETIN

皆様からのニュースのご提供を
心からお待ちしております。

全肢連情報はホームページ「響(ひびき)」でもご覧になれます。URL : <http://www.zenshiren.or.jp>

SNSで障害児・者、肢体不自由児・者の情報交換を *Facebook* <https://www.facebook.com/ZENSHIREN>

□編集・発行

一般社団法人全国肢体不自由児者父母の会連合会

〒171-0021

東京都豊島区西池袋4丁目3番12号

□Publisher ZENSHIREN

TEL : 03-3971-3666

FAX : 03-3982-2913

E-mail : web-info@zenshiren.or.jp

第50回全国大会 京都市で開催される

平成29年度第50回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会（第52回近畿肢体不自由児者福祉大会 京都大会）が、平成29年9月8日(金)、9日(土)に京都市 リーガロイヤルホテル京都ならびに京都テルサにて開催された。

『住み慣れた地域で、共生社会の実現！～誰もが排除されることのない全員参加型の社会へ～』をテーマに、大勢のスタッフ、ボランティアに支えられ、京都府内、近畿エリアを中心に全国より900名を超える参加者（資料参加者を含む）が相集い、第50回大会記念前夜祭、アンケート報告、基調講演など多岐にわたる内容の大会も盛会裏に終了した。

第50回大会を記念した前夜祭は9月8日午後6時よりリーガロイヤルホテル京都にて催された。前夜祭には全国から約330名が参加。韓国脳性麻痺福祉会 崔京子会長より祝辞が述べられた後、コカ・コーラウエスト株式会社 執行役員営業本部長 関敬介氏による乾杯で開宴した。

アトラクションとして長刀鉾祇園囃子保存会による祇園囃子演奏と、舞妓・芸妓の演舞が披露され、その美しい音色と艶やかな舞で参加者を魅了した。

その後、恒例となっているコカ・コーラ社提供による折りたたみ自転車やノベルティグッズが当たる抽選会が行われ、楽しいひと時を過ごすことができた。

大会当日の9月9日は晴天に恵まれ、京都テルサにおいて午前10時より受付開始。10時30分よりテルサホールにおいて開会セレモニーで幕が開いた。物故者への黙祷が捧げられ、続いて全肢連会歌「太陽と共に」を参加者全員で斉唱した。

式典はフリーアナウンサー岩崎絵美氏の総合司会進行により、全肢連 植松潤治副会長により開会宣言で始まり、清水誠一会長による主催者挨拶が行われた。引き続き、京都府山田啓二知事による大会名誉会長挨拶（代読：山内修一副知事）、京都市門川大作市長による開催地歓迎挨拶が行われ、厚生労働大臣、文部科学省大臣からの祝辞披露、日本肢体不自由児協会 田中健次理事長の祝辞が披露された。併せて臨席のご来賓のご紹介、祝電が披

露された後、厚生労働省 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室室長補佐 上井正純氏、文部科学省 特別支援教育調査官 分藤賢之氏による中央情勢報告が行われ、上野常務理事の閉式の挨拶をもって開会式は終了した。

開会式典の後、昼の休憩をはさみ午後1時25分より、「障害のある人の（母）を対象としたアンケート」の報告が京都市肢連 古川末子副会長進行のもと行われた。

本調査の趣旨は全国大会のメインテーマである『住み慣れた地域で共生社会の実現！』の目指すものは「すべての人が社会から排除されることなく、人として生きることが承認されることではないか」ということから、50周年記念となる本大会で、これまでの主役である『障害児者』ではなく、介護をほぼ一手に引き受けてきた家族、特に母親に、そのスポットを当てたいという思いから、「親（とりわけ母親）の思い」に焦点化した本調査の設問は、「あなた（親）自身」について答えてほしいと指定のもと調査が行われた。

①ひとりの人間として、あなた自身があきらめてきたこと、つらかったことは何ですか。

②ひとりの人間として、あなた自身がうれしかったことは何ですか。

③これからの生活において、あなた自身が望むことは何ですか。

本調査は近畿ブロック（滋賀県、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県、京都市）各地域の父母の会の協力を得て実施。回答結果を下記の項目ごとに分類し、11名による分析報告書によって詳しい説明が行われた。

- ・降りられない（母）親役割、終わらない子育て
- ・あきらめたのは仕事：障害のある子の母親が働くことは想定外か？
- ・子育ての喜びも負担も、そして親に代わる背負い手探しへ
- ・親から見た障害のある子のきょうだいたち：やましさと期待
- ・「してくれない夫」からの二次的な被害の継続
- ・親族の言葉ひとつで肯定にも否定にも
- ・医療的に否定的となるか肯定的となるかは当たった人しだい
- ・教育機関に当たっての後悔と自責
- ・「父母の会」を含むコミュニティ：世代間格差の大きいピアの存在
- ・福祉サービスの地域格差は埋められるか？
- ・親亡き後の福祉の充実を
- ・結論：「父母の会」に未来はあるか？

アンケート報告の後、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク 理事長上野千鶴子先生による『障害のある人の母親という経験』と題された記念講演では、障害のある当事者を含めた共生社会の実現に向け、これからの社会に向けた課題と取り組みのヒント、親（母）（女性）当事者としてできることのアドバイス、これまで苦勞や生き辛さを抱えてきた親も今を生きる存在であることなど、参加者の力づけとなる講演は、講演後の質疑応答でも参加者からの共感を得られたことが伺えた。

午後4時より閉会セレモニーが行なわれ、京都市肢連 古川敦子副会長によって前文と6項目にわたる大会決議文が朗読され、異議なく採択された。

引き続き、全肢連 清水誠一会長から大会決議文を厚生労働省 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室室長補佐 上井正純氏、文部科学省 特別支援教育調査官 分藤賢之氏に手渡された。

京都市肢連 渡辺登志子会長より開催地謝礼が述べられ、次期全国大会開催地の北海道肢連協 橋本康治副会長、次期近畿ブロック大会開催地の和歌山県肢連 岩橋秀樹会長より挨拶が述べられた。今大会は全肢連 石橋吉章副会長による大会終了宣言により幕を閉じた。

なお、来年度の第51回全国大会並びに第31回北海道ブロック福祉大会は、平成30年9月29日（土）～30日（日）に北海道函館市「函館アリーナ」にて開催される。

大会決議文

障害のある人やその家族が地域社会のなかで、あたりまえに暮らしたいと願い続けて久しくなります。

父母の会の諸先輩は障害のある子と共に生きていくなかで、国への要望をはじめ、数々の活動を行ってきました。父母の会が創り出さなければ何も支援がなかった時代から思えば、現在は、制度も少しずつ整備され、障害のある人への支援が広がってきたといえます。

しかし、『住み慣れた地域での共生社会の実現』には、課題が山積しています。障害のある人の尊厳や存在自体を否定するような今の流れに、歴史が後戻りする危険性を感じます。

経済的価値や能力で人間を序列化し、「強者」「勝者」のみが報われる社会、多様性を認めない社会の在り方は、誰にとっても、息苦しく、もろく、危険な社会ではないでしょうか。

障害のある人も、その親・家族も、共生社会の一員であることをここに確認し、すべての人が排除されることのない社会を目指して、ここに、第50回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会・第52回近畿肢体不自由児者福祉大会京都大会の名において、次の事項を決議します。

1. 障害のある人の尊厳と生命が守られ、地域社会の中で障害のある人も、その親・家族も、誰もがその人らしい生活を営むことができる社会の実現
1. 障害者権利条約、障害者差別解消法をより普及させ実効性を高める
1. 障害のある人の所得保障並びに住まいの場の保障を充実させる
1. 医療的なケアを必要とする重度障害児者への、生活の場全般の支援策の構築
1. 障害の有無によらず、誰もが地域の学校で学ぶインクルーシブ教育の充実
1. 障害のある人についての合理的配慮に基づく防災、減災の取り組みの推進

平成29年9月9日

第50回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
第52回近畿肢体不自由児者福祉大会京都大会

自立支援介護法 報酬改定へ議論一巡 ～厚労省審議会

平成30年の介護報酬改定に向けて厚生労働省の社会保障審議会介護給付費分科会は8月23日、介護の質や自立支援に向けた事業者の評価について議論した。委員からは自立の指標が要介護度の改善だけになることや、身体的自立に偏重した評価になることを懸念する意見があり、「まずは自立支援に資する介護のデータを月収集して検証すべき」といった指摘が多く出た。

政府が6月に閣議決定した「未来投資戦略」と「骨太の方針」には、平成30年度の介護報酬改定で自立支援に資する介護の評価や報酬のメリハリ付けについて対応するよう記されている。ただ自立にはさまざまな捉え方があり、何をもって評価するかの判断は簡単ではない。

同日も「自立改善は複合的な要因があり評価は難しい」との意見のほか、「その人の生きがいに対して評価することが基本」「利用者の満足度や生活の充実感も評価に欠かせない」「状態の改善が困難なケースは結果が出なくても現場が努力を怠ったわけではない」など立場によって意見はさまざまであった。

同日は介護職員処遇改善加算も議題に上がった。厚労省は平成29年4月に創設した新加算Ⅰ（月1万円相当上乗せ）による賃金改善効果の調査結果をみて引き続き検討することを提案し、これに賛同する委員が多かった。

ただ調査は平成29年10月に行い、結果は平成30年3月に公表予定のため、平成30年度改定の議論には間に合わない見通し。加算Ⅳ、Ⅴの見直しも論点となり、委員からは取得率が各1%に満たないことなどから廃止にすべきとの意見が目立った。

また介護ロボットの活用をどう評価するかも議論した。活用することには肯定的な意見が多かったが「まずは安全性を確保すべき」「利用者からの評価も欠かせない」「もともと少ない職員を削減するのは困難」といった指摘があった。

そのほか、訪問系サービスの集合住宅にかかる減算が適用されている場合、要介護度別の支給限度額の算定では減算前の単位で判断する見込みとなった。減算後の単位で判定するとより多くのサービスが受けられる現状を是正して公平にする。

今回で介護報酬改定に向けた個別サービスの議論は一通り終わった。9月9日と13日にも事業者団体へのヒアリングが行われ、今後は年末にかけて具体的な議論を行う。

処遇改善加算 介護の労働組合が国に要請

介護保険従事者約7万人超えで組織する労働組合「UAゼンセン日本介護クラフトユニオン（NCCU）」は8月28日、介護職員処遇改善加算の対象にケアマネージャーや事務員などすべての介護従事者を含めるよう要請書を加藤厚生労働大臣に提出した。

要請書には平成30年度介護報酬改定の引き上げなどを求める6項目が並んだ。久保芳信会長は「介護報酬が上がらなければ労働条件も改善されず人材不足は解消しない」と話した。介助従事者の平均月給は21万8592円で、全産業平均より約8万5000円低いとした。処遇改善加算は拡充されてきたものの、配分方法が不透明、加算取得の事務負担が重いといった声があることを紹介し、基本報酬に現行の加算相当額を組み込んで必要な要件と賃金水準を満たさない法人は減算するなどの仕組みを作るべきだとした。

そのほかICT（情報通信技術）を活用した事務作業の簡素化、身体介護と生活援助の一元化、要介護度が改善した場合の適切な評価を求めた。

津久井やまゆり園 再生基本構想案を発表

昨年7月に殺傷事件のあった神奈川県立の障害者支援施設「津久井やまゆり園」について、神奈川県は8月24日、元の敷地と横浜市内の県有地に施設を分散整備する再生基本構想案を発表した。2施設の定員は長期120人、短期12人の計132人とした。各施設の定員は未定。

2施設とも県立施設として指定管理者が運営するが、現行の社会福祉法人がかながわ共同会が担うのかどうかは示さなかった。県は県議会への説明などを経て10月上旬に構想を決定する。

事件当初の入所者130人は当初の予定より遅い2021年度中にこの2施設に移る見込み。施設の規模を小さくし分散することで入所者に複数の選択肢を示すことが妥当と判断した。県は、元の敷地に全面建て替えし全入所者を戻すとした昨年9月の方針から転じる決断をした。

黒岩祐治知事は同日、入所者の家族会役員と面会后、記者団に対し「全面建て替えを望んだ家族会の期待を裏切ったことをお詫びした」と報告した。

これまで分散整備案を否定的にみていた家族会の大月和真会長はその後の会見で「形の上では私たちの要望と異なるが立派な内容になった。ようやくこの事件の出口が見えた」と評価した。

県は津久井やまゆり園の再生について今年2月に県障害者施策審議会に専門部会を設け、議論を重ねてきた。県の再生基本構想案は8月17日の同審議会の会報告に沿っている。

平成29年度福祉ビジョン21世紀セミナー 開催案内

「安心して生きていける『社会保障・福祉制度』改革の展望と福祉人材の確保」をテーマとしたセミナーが開催される。

- 日 程：平成29年11月29日(水)～30日(木)
- 会 場：全社協・灘尾ホール 東京都千代田区霞が関3-2-2 新霞が関ビルLB階
- 主 催：(社福)全国社会福祉協議会
- 参加費：15,000円(1名につき)
- 内 容：第1日目 講演

『少子化・人口減少の社会保障制度の展望』

『地域包括ケアシステムにおける医療と介護の連携と認知症の人々の支援』

『子どもの求めるもの、こころの居場所』

第2日目 シンポジウム

『喫緊である福祉人材確保・養成・定着と福祉サービスの質の取組』

- 申込み・問合せ先

(社福)全国社会福祉協議会 政策企画部 広報室 担当：佐藤、浄閑(じょうかん)

東京都千代田区霞が関3-2-2 新霞が関ビル

☎：03-3581-7889 FAX：03-3580-5721

E-mail：z-koho@shakyo.or.jp

第36回 グラフィックアート・コンテスト

平成29年度も4月～6月にかけて作品を募集した結果、特別支援学校や施設、個人の方々からたくさんのご応募をいただきました。

選考委員会による厳正な審査により、各部門の「優秀賞」「佳作」「努力賞」が下記の通り選出され、賞状並びに記念品を贈呈しました。

<第1部 コンピューター部門>

☆優秀賞 残念ながら今回は該当作品がありませんでした。

☆佳作 富沢 拓巳さん 「世界でひとつだけのバラ」

渡辺 智子さん 「幸せになる、シロイルカ」

☆努力賞 浜 茂美さん 「冬の椿」

<第2部 デジタル写真部門>



<優秀賞 作品>

☆優秀賞 山本 恭次さん「開花！」

4月初旬、施設近くの温泉街を散策した時の一枚。

☆佳作 丸岡 碧さん 「青空教室」

金井 莉麻さん「ブルゾンりま、With T」

野中 康平さん「私の物！！」

長澤 優希さん「公園の守護神」

☆努力賞 森川 美優さん「てをつなごう～世界中に愛を♡～」

小林 樹さん 「スマイルスパーク」

長島 康太さん「光のさきにあるもの」

齋藤 涼子さん「あ！ゾウみつけた。」

長井 珂乃さん「ここよ、ここよ～！」

江波戸 歩夢さん「オレンジおいしいよ～」

佐藤 陽月さん「私のクラスメイト」

平成29年度「児童福祉週間」標語募集

- ◆趣 旨 子どもたちが健やかに育つこと、これは社会の宝である子どもたちに対する国民全体の願いであり、すべての子どもが家庭や地域において、豊かな愛情に包まれながら、夢と希望をもって、未来の担い手として、個性豊かに、たくましく育っていけるような環境・社会を作っていくことが重要です。
- 子どもの健やかな成長、子どもや家庭を取り巻く環境について、国民全体で考えることを目的に、毎年5月5日の「こどもの日」から1週間を「児童福祉週間（5月5日～11日）」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種行事を行っており、今般、その象徴となる標語の募集を行うものです。

- ◆募集期間 平成29年9月1日(金)～10月20日(金) ※10月20日消印有効
- ◆募集内容 元気で頑張る子どもたちを応援する標語や未来に向けての子どもたちからのメッセージとなる標語。
- ◆主催者 厚生労働省、(社福)全国社会福祉協議会、(公財)児童育成協会。
- ◆応募資格 どなたでも応募できます。
- ◆応募方法 ①はがき、封書またはファクシミリによる応募
応募先に直接持ち込んでいただいても差し支えありません。
一人何点でも応募できます。はがき1枚またはファクシミリ用紙1枚につき、1作品のみ記入して下さい。また、封書の場合にも、用紙1枚につき1作品のみ記入して下さい。(複数同封は可能です)
応募にあたっては、用紙ごとに郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、年齢、職業、電話番号を必ず記入して下さい。
②インターネットによる応募
(公財)児童育成協会のホームページ内に「平成29年度児童福祉週間標語応募フォーム」があります。氏名等の必須事項を入力し、送信してください。
一人何点でも応募できますが、1回の応募につき、標語は1作品しか入力できません。(複数応募する場合には、標語毎にフォームを入力し、送信してください。)
- ◆応募先 〒150-0011 東京都渋谷区東2-22-14 ロゼ氷川ビル6階
公益財団法人 児童育成協会「標語募集」係宛
TEL:03-3498-4592 FAX番号：03-3797-5676
ホームページ：http://www.kodomono-shiro.or.jp/

- ◆平成29年度「児童福祉週間」最優秀作品 標語
「できること たくさんあるよ きみのてに」

第44回国際福祉機器展 開催案内

日本初の福祉機器の国際展示会であるH.C.R.は、いまやアジア最大規模に達しています。H.C.R. 2017では、15か国1地域より528社の企業・団体が数多くの製品を展示します。ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボットまで、福祉機器の今・未来を、みて、さわって、たしかめる3日間！さらに多彩なセミナー、イベントも実施します！ぜひご来場ください！

- 会 期：平成29年9月27日(水)～9月29日(金) 10:00～17:30
(最終日29日のみ16:00まで)
- 会 場：東京ビッグサイト東展示ホール
東京都江東区有明3-11-1

- 入場料：無料（登録制 事前もしくは当日）
- 主催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会
- 企画：*海外の社会保障、福祉制度・施策に関するシンポジウムの開催。
海外の社会保障、福祉制度・施策に関する最新動向や情報提供のため、国際シンポジウムを開催。 ※有料：参加費1000円
- *利用者・家族向けのセミナーの開催
福祉機器の適切な選び方・使い方の知識や情報提供など、利用者・家族向けに役立つテーマでセミナーを開催。
- *福祉施設役職員・福祉機器企業関係者など向けのセミナーの開催
福祉施設職員、福祉機器企業関係などへの情報提供やスキルアップのためのセミナーを開催。
- *時代の変化に応じた特別企画を開催
最新の福祉機器や介護ロボット、障害のある子ども向けの機器の手中展示や療育相談や高齢者向けの料理講座の開催など、毎年多彩な企画・催事を開催。

○詳しくはこちら→ https://www.hcr.or.jp/cms/wp-content/uploads/leaf_2017.pdf

第14回チャレンジドフォーラム inSAGA 開催案内

- ◇日時 平成29年10月28日（土） 午前9時40分～（開場9時15分～）
- ◇参加費 3000円（資料代込）
- ◇会場 メートプラザ佐賀
佐賀市兵庫町大字藤木1006番地1 ☎0952-33-0003
- ◇主催 チャレンジドフォーラムinSAGA実行委員会
- ◇基調講演「福祉サービスはどう変わるのか？～総合支援法改正と報酬改定のねらい～」
シンポジウム①「障害者差別解消法について～県条例のあり方は～」
特別公演「これからの障害福祉について」
シンポジウム②「包括的な自閉症・発達障害支援について」
シンポジウム③「医療的ケア児の未来のために」
シンポジウム④「保護者の思い～行き場がないなら、作るしかない～」
- ◇申込方法 既定の応募用紙にご記入の上、FAXにてお申込み下さい。
入手先 <http://blog.canpan.info/fukuichi/archive/115?1504400347>
FAX：0952-97-5568
- ◇締切 平成29年10月20日（金）
- ◇問合せ先 実行委員会事務局 担当：横尾、大場
☎0952-97-5567 FAX：0952-97-5568
E-mail：sagaforum@yahoo.co.jp